

'91市勢要覧
KUMAMOTO

くまもと





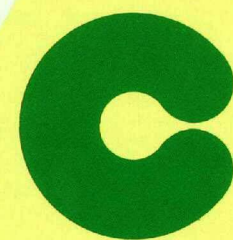
'91市勢要覧
CONTENTS

熊本市民愛市憲章	1	雇 用 福 祉	45
市木・市花・市鳥	2	消費者行政	46
発刊のことば	3	女性の地位の向上	47
ヒューマン シティ くまもと より人間らしい街づくりをめざして	4	児童・母子福祉	48
熊本市のあゆみ	6	学 校 教 育	49
名 誉 市 民	13	学 校 施 設	50
地域と気象	14	社 会 教 育	51
人 口	15	活力あふれる交流拠点都市を目指して	
4 町 合 併	18	国 際 交 流	53
水と緑の人間環境都市を目指して		観 光	54
緑 と 水	21	産 業	56
清 掃	22	商 業	57
公 害 防 止	24	工 業	58
防 災	25	農林水産業	59
消 防	26	風格ある文化創造都市を目指して	
交 通 安 全	27	地 域 文 化	61
住 宅	28	火の国まつり	62
公 園 緑 地	29	都市景観の創出	63
上 下 水 道	30	行 政	64
都 市 計 画	32	熊本市行政機構図	65
道 路	34	市 議 会	66
市電・市バス	35	財 政	68
基 幹 交 通	36	広報・広聴	70
いきいきとした市民福祉都市を目指して		市民のくらし	71
長 寿 社 会	39	熊本市のご案内	72
社 会 保 障	40	資 料 編	73
心身障害者福祉	42	市内の主な官公署	83
保 健 衛 生	43	あ と が き	84
健 康 文 化	44	熊 本 市 歌	

(題字……熊本市長 田尻靖幹)
(写真説明)

宇土櫓と長烏帽子 (ながえぼし)
この長烏帽子は正しくは「蛇の目紋入り長烏帽子形張掛かぶと」(鳥田美術館蔵)といい、高さ72cm、重さ2.5kgです。
かぶとの一種でただちに加藤清正を思い出すほど有名なものです。
戦国時代に著しくなった団体戦において、自己の存在を強く主張するためにそれぞれの武将が工夫し特徴付けています。戦いの最中、攻防の要を占めている大將は、その存在が全軍の兵から注目され、出処進退に迷うことがないよう目立つ必要があるからです。
なお、このかぶとは、紙とこよりを漆で固めたものですが、頭にかぶるところは皮製になっています。

H U M A N C I T Y K U M A M O T O



熊本市民
愛市憲章

—— 品位ある市民の誇りのために ——

私たち熊本市民は 清潔で住みよい街をつくりましょう
私たち熊本市民は 郷土の自然や文化財を大切にいたしましょう
私たち熊本市民は 時間を正しく守りましょう
私たち熊本市民は 交通道德を重んじましょう
私たち熊本市民は 互いにあたたかく交わり旅行者を親切に迎えましょう

熊本市章

ひらがなの「く」の字を
図案化したもので、市民の
調和を基とし、たくましく
発展する熊本市の姿を太い
円で示したものです。

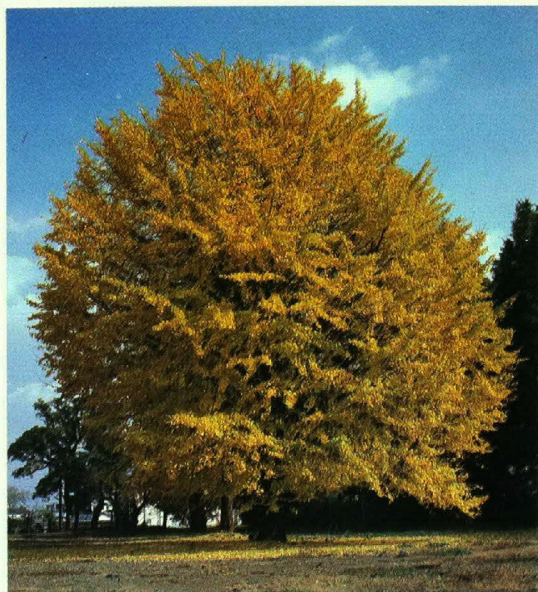
昭和35年5月11日制定

市木・市花・市鳥

市木・市花 昭和49年10月9日制定
市 鳥 昭和59年5月22日制定

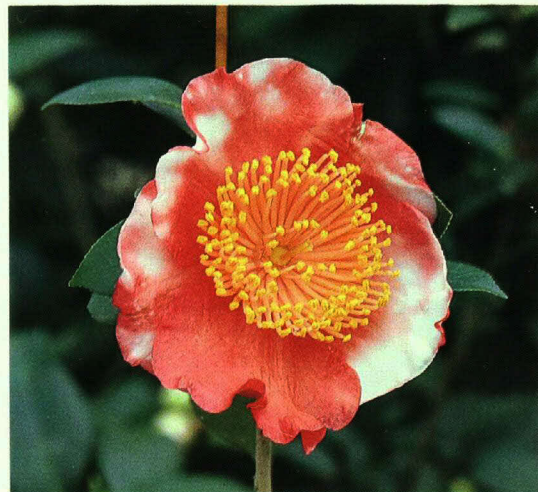
●市 木 イチョウ(イチョウ科)

熊本市民には熊本城が銀杏城といわれているようになじみ深く、強健で樹齢が長く、市街地の街路に多く植栽され、独特な尖円錐形の樹形をつくり春の緑陰、秋の黄葉とその美しさでよく知られている。



●市 花 肥後椿(ツバキ科)

江戸時代から細川藩の庇護を受け、藩士をはじめ寺社地の豪族等の愛好者によって広められ改良を重ねて、清雅枯淡の味わいある銘花となったといわれている。肥後椿の特色は薄色の花弁が主流でよく整った一重咲きで、中心に金糸銀糸のような色鮮やかな太い雄しべが梅芯のように盛りあがるところにある。



●市 鳥 シジウカラ(シジウカラ科)

全長約14.5cmで、美しい澄んだ声でさえずり、多量の害虫を食べ、緑を守る益鳥として市民に親しまれている。金峰山や立田山、託麻三山など森に多く生息し、白い胸に黒ネクタイ状の帯が目立つ可愛い姿で、四季を通じて観察される。



(写真は東海大学出版会提供フィールド図鑑より)

発刊のことば Human City くもと

熊本市は本年2月1日、飽託郡北部町・河内町・飽田町・天明町と合併し人口約63万、面積266.21平方キロメートルの新熊本市が誕生しました。明治22年の市制施行以来、恵まれた自然環境のもと、多くの先人のためめぬ努力により築かれた個性と伝統ある文化・風土を大切に守り育てながら、今日九州の雄都として着実な発展を続けています。

私は、先の市政施行100周年、そしてこの度の合併を機に、10年後の熊本市の人口70万人、広域都市圏100万人と想定した新たな「熊本市基本構想」を策定しました。この基本構想の目指す都市像は、「水と緑の人間環境都市」、「いきいきとした市民福祉都市」、「活力あふれる交流拠点都市」、「風格ある文化創造都市」であり、市民と行政がそれぞれの役割と責任を果たしながら、熊本らし

い特色づくりを進めて行くものであります。急速に社会変革の進行する中、安全で快適な生活環境を維持し、全市民が人間本来の豊かさを実感でき、都市としての魅力と活力あふれる「ヒューマンシティ・くもと」を建設していくことが我々に課せられた使命であります。

本年は、「南部総合スポーツセンター」や地域経済の活性化に大きな役割を果たすと期待される「五福地域開発センター」など相次いで開設いたしますが、平成3年度には、高齢化社会における福祉活動の核としての「長寿の里」建設をはじめ、国際交流の拠点となる「国際交流会館」や合併を記念しての「全国物産展」、「食品総合等工業団地」、「勤労者福祉会館(仮称)」の具体化を図る

とともに、有明海沿岸と金峰山一帯の総合的観光開発を進めることにしております。

さらに、ゆとりと潤いのある都市空間形成の一環として、新屋敷リバーサイド構想に着手するなど、快適な都市環境の整備に本格的に取り組むことにしております。どうか今後とも、市民の皆様方の一層のご支援、ご協力をいただきますようお願いいたします。

この市勢要覧は、未来に向けて大きく飛躍しようとする熊本市の現況と将来を、写真と資料によって紹介したものであり、ご高覧のうえ市政への一層のご理解を深めていただければ誠に幸いに存じます。

平成3年3月
熊本市長

田尻靖幹



HUMAN CITY KUMAMOTO



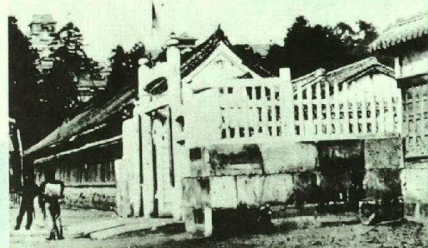
より人間らしい街づくりをめざして

心の豊かさを求めて 新しい熊本が今、歩き始めました。

熊本は、昔から「火の国」と呼ばれてきました。大化の改新のあと、奈良時代に入って現出水町に国府がおかれ、ここを中心に聚落が形成されるようになりました。こののち、平安・鎌倉時代を経て室町時代になると、菊池一族である出田秀信が、はじめて熊本に千葉城を築き、数代後の城主鹿子木親員が、新しく茶臼山に城を築いて隈本城と呼びました。

豊臣時代に入って秀吉は全国を制覇するや小西行長と加藤清正に肥後を分領させたが、徳川の天下になると、加藤清正は肥後54万石の領主となり、慶長6年から茶臼山に築いていた新城を、隈本城から熊本城に改めました。熊本市が町としての体制を整えたのは、このころからです。続いて細川忠利が肥後の領主となり、大政奉還までの二百有余年を細川家が政治を行ってきました。

明治10年西南の役で兵火を受け、市街地の大部分を灰燼に帰したが、直ちに復興し、明治22年には熊本市が誕生しました。大正から昭和にかけては隣接町村を合併しつつ熊本市の基礎を固め、九州における政治・経済・教育の中心地として発展を続けました。その後、



鎮台花畑本営と熊本城、現在の市民会館前から撮影したもので大小天守閣が見える。明治5年頃。

		西暦	
		大化	文明
大化	646	大化2年 砂取付近に肥後の国府および兵力4軍団が設置される	
文明	1469	文明1年 菊池氏の一族、出田秀信千葉城を築く	
明応	1496	明応5年 鹿子木親員、古城に居城を移し、隈本城と称する	
慶長	1601 1607	慶長6~12年 加藤清正、現在地に熊本城を築き、河川の築堤、井戸の掘削など行う	
寛永	1632	寛永9年 細川忠利、肥後藩主となる	
宝暦	1754 1756	宝暦4~6年 藩校時習館、医学学校再春館、藩滋園(薬草園)などが創設される	

熊本市のあゆみ

THE COURSE OF KUMAMOTO

昭和20年には大空襲で、終戦後の復興期にあった28年には未曾有の大水害によって、市街地は壊滅的な被害を受けました。しかし全市民の不断努力によって、困難を克服した熊本市は、その後数次にわたる市域の拡大や近代的都市機能の集積を行い、平成元年4月には市制施行100周年という大きな節目を迎えました。

そして、平成3年2月1日、飽託郡の北部町、河内町飽田町、天明町と合併し、人口約63万人、面積約266平方キロメートルの新熊本市が誕生しました。

更にこの合併を機に、「ヒューマンシティーくまもと」実現のため、「水と緑の人間環境都市」「いきいきとした、市民福祉都市」「活力あふれる交流拠点都市」「風格ある文化創造都市」を目指す都市像とした「熊本市基本構想」を策定し、今後基本計画、実施計画に取り組むこととしています。



新南千反畑町の旧区役所跡に熊本市役所は開庁した。



明治20年古城に新設された第五高等中学校は、同22年立田山麓の黒髪に移転。

明	1870	明治3年 古城に医学学校が創設される
	1871	4年 廃藩置県により熊本県が設置される 鎮西鎮台(九州および中国西部を管轄)が設置される 熊本洋学校が創立される
	1874	7年 九州最初の新聞、白川新聞が発行される
	1877	10年 西南の役、市街地の大半が兵火により焼失した
	1886	19年 熊本通信管理局(郵務・電務関係)が設置される
	1887	20年 第五高等中学校(九州に1校)が創立される
治	1889	22年4月 市町村制が施行され、熊本市が誕生する 市域面積5.55km ² 、人口42,725人、戸数11,797戸、市議会議員数30人、市職員48人であった
		6月 赤十字社熊本支部設立 新南千反畑町、現在の白川公園前に市役所が開庁

明	1890	明治23年10月 教育勅語発令(井上毅と元田永孚が成案) 11月 第1回帝国議会が開かれる
	1891	24年7月 門司・熊本間の九州鉄道が開通 熊本電燈会社が開業し九州に初めて電燈がともる
		11月 ラフカディオ・ヘルン(小泉八雲)五高に着任
	1892	25年4月 塘林虎五郎が貧児寮(現大江学園)を設立
	1894	27年7月 第6師団に動員令がくだる 孤児・貧児の養育を目的とした天使園が設立される
		8月 日清戦争がはじまる
	1895	28年11月 イギリス人ハンナ・リデル女史が回春病院設立
	1896	29年4月 夏目漱石が五高に着任、熊本を森の都と称賛
		9月 私立医学学校が設立される
治	1898	31年1月 熊本専売支局が黒髪町に葉煙草専売所設置 10月 フランス人、ジョン・メリー・コール神父が瀬救済の待労院を設立 この年、市立避病院設立(後の白川病院) 第23連隊練兵場が山崎町から渡鹿に移る
	1899	32年6月 私立医学学校が熊本医学専門校となる

明	1899	32年12月 三角線開通
	1900	33年7月 市内に大洪水、白川の橋ほとんど流失し、子飼橋付近溺死者多数
	1901	34年1月 熊本郵便局が電話業務を開始



明治34年に市内の電話が開通した。交換手の白い上衣、紫袴は当時の女性の憧れだった。

明	1902	35年11月 明治天皇をお迎えし、陸軍特別大演習を挙行 行幸橋を架設
---	------	---------------------------------------



旧熊本城南大手入口の下馬橋。明治35年11月の陸軍大演習の際、行幸坂、行幸橋が造られ姿を消した。

治	1903	36年3月 市区改正の事業と新市街の事業完成
---	------	---------------------------

明	1904	37年2月 日露戦争はじまり、第6師団出征
	1906	39年3月 熊本高等工業学校設立 9月 夏目漱石が「草枕」を発表
	1907	40年7月 九州鉄道が国有となる 12月 熊本軽便鉄道株式会社が安巳橋・水前寺間に軽便鉄道を敷設



軽便鉄道。K.K.T.Kは熊本軽便鉄道株式会社の略。

治	1908	41年2月 人力車争議おこる
	1909	42年 鹿児島本線全線開通
	1910	43年1月 薬学専門学校発足 4月 女子師範学校発足 6月 熊本ガス株式会社が開業する
	1911	44年4月 市立実科高等女学校開校 市立工業徒弟学校開校 10月 菊池軌道株式会社が上熊本・広町間敷設

熊本市のあゆみ

THE COURSE OF KUMAMOTO

- 大正 1913 大正2年
この年、熊本軌道が田崎・百貫港、田崎・高麗門に開通
- 1914 3年7月
第1次世界大戦はじまる
- 1915 4年11月
御大典記念奉祝共進会を開催
- 1916 5年6月
県公会堂が市に移管される
- 1917 6年3月
熊本市工業従弟学校が熊本商工学校となる
- 1918 7年7月
このころより全国に米騒動
- 10月
スペイン風邪が流行し、全国で死者15万人
- 1920 9年10月
第1回国勢調査で、市人口70,388人(市史)
戸数 13,817戸
- 1921 10年6月
隣接11ヶ町村を合併、人口133,467人
戸数23,819戸の大熊本市が発足(黒髪・池田・花園・島崎・横手・春日・古町・本荘・春竹・大江・本山)



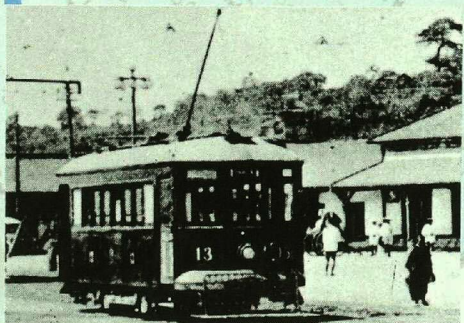
大正10年、隣接11ヶ町村を合併し大熊本市が発足した。記念碑前で合併を祝う人たち。

- 大正 1922 11年4月
熊本市立実科高等女学校が熊本市立高等女学校となる
- 5月
熊本医学専門学校が医科大学に
- 1923 12年12月
手取本町に市役所新庁舎完成



大正12年12月、市役所新庁舎完成。

- 大正 1924 13年8月
市営電車開通(車輛15台)
開通に伴い鉄筋コンクリート大甲橋を架設



大正13年8月1日市電開通。救助網がついている開通当時の13型電車。

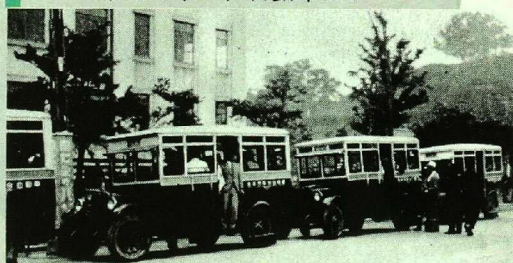
- 10月
歩兵第23連隊が渡鹿に移転

- 11月
熊本市上水道完成



大正末の市街地。合併による市域の拡大、三大事業の完成など、市の中心から周辺へと都市づくりが進む。

- 大正 1925 14年3月
市三大事業(市電、上水道、23連隊移転)完成記念共進会開催
入場者133万人
- 4月
出水村を市に合併
- 1926 15年8月
三大事業完成記念共進会の剰余金で五高と下河原にプールを造成
- 昭和 1927 昭和2年2月
長六橋を近代式鉄橋に架け替える
- 7月
市立工業研究所(後の工芸指導所)が開所
- 12月
市営バス発足(バス17台)
この年、市及び市付近の人力車812、乗用馬車4、自動車115

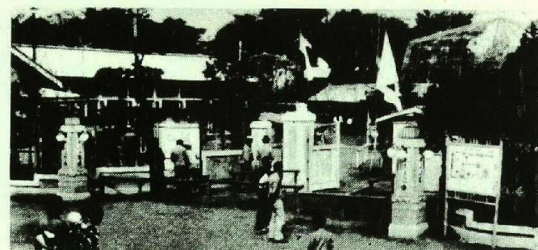


昭和2年12月から17台の市営バスが走り始めた。(写真は昭和8年6月)

- 昭和 1928 3年2月
第16回総選挙、最初の普通選挙行われる
- 6月
NHK熊本放送局でラジオ初放送
- 9月
御大典記念事業として、陸上競技場・野球場が完成

- 1929 4年7月
水前寺動物園が開園

- 1930 5年3月
熊本市歌を制定



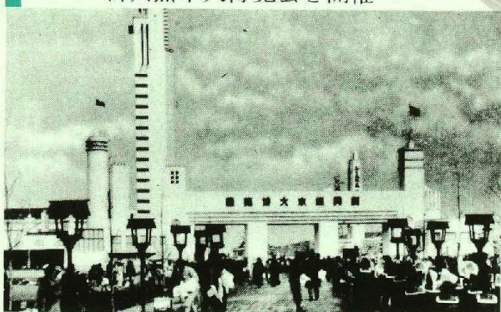
昭和4年7月に水前寺動物園が開園。

- 昭和 1930 5年4月
市営勧業館が新市街に開館
- 10月
市公会堂新館が開館



昭和5年5月、公会堂の新館が開館。昭和43年市民会館の出現に伴い取りこわされた。

- 昭和 1931 6年6月
白坪村を市に合併
- 11月
天皇陛下をお迎えし、熊本平野等で陸軍特別大演習を挙る
- 1932 7年9月
失業救済の土木事業をはじめる
- 12月
画図村を市に合併
- 1933 8年3月
花園町に市営墓地を開設
- 4月
熊本高等小学校が再設開校
熊本駅に観光案内所を設置
- 和 1935 10年3月
新興熊本大博覧会を開催



昭和10年3月から5月にかけて開かれた新興熊本大博覧会。

- 昭和 1936 11年11月
健軍村を市に合併
- 1939 14年4月
清水村を市に合併
- 1940 15年12月
川尻町、日吉村、力合村を合併
この年、市営バスに木炭車登場
- 1941 16年4月
小学校が国民学校に改められる
- 12月
太平洋戦争はじまる
- 昭和 1942 17年4月
九州日日新聞と九州新聞が統合され、熊本日日新聞が発足
- 1943 18年
この年、学徒、女子挺身隊の戦時動員が開始される
健軍に三菱重工業航空機製作所が完成する
- 1944 19年3月
市電気局が市交通局と改称
- 1945 20年6月
市立本荘産院が発足
- 7月
7月・8月の空襲で市の大半が焦土と化す
- 8月
終戦の詔書放送
- 1946 21年2月
市立市民病院発足
- 11月
日本国憲法公布(新憲法)
この年、学校給食はじまる
- 1947 22年4月
市長、県知事が初めて公選で決まる
国民学校が小学校にまた新制中学が誕生
- 5月
憲法、地方自治法施行
- 和 1948 23年3月
市消防本部設置
市立母子寮を開設

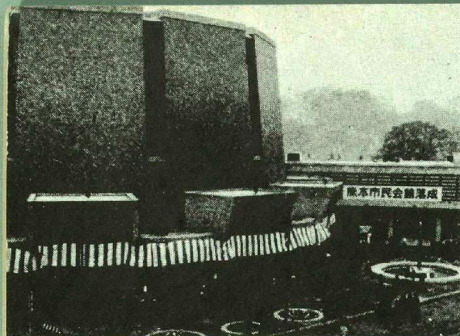


昭和10年頃の新市街記念碑前、市営バスの発着所。左に専売局と公会堂、右に勧業館、電話局が見える。

- 昭和 1948 23年3月
市自治警察本部設置(新警察制度発足)
- 4月
新制高等学校発足する
- 1949 24年4月
「火の国まつり」はじまる
市立実務員養成所(後の実務商業)を開設
- 5月
天皇皇后両陛下ご来熊
この年、国立熊本大学発足
県立熊本女子大学が創設される
市立熊本保健所を上林町に開設
- 1950 25年6月
朝鮮戦争おこる
- 7月
市競輪事業開設
熊本市立産院開設
- 1951 26年4月
市教育研究所を設置
- 1952 27年1月
市立博物館開館
- 7月
住民登録制度を実施
- 和 1953 28年4月
田迎村、御幸村を市に合併
- 6月
豪雨、大水害で市人口の66%が罹災



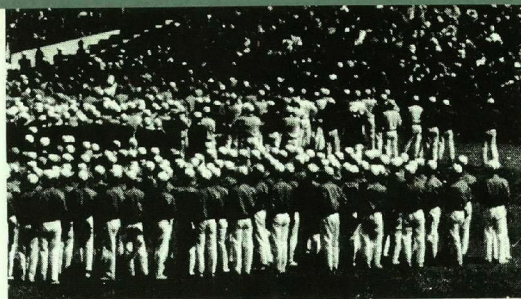
「昭和28年6月26日」大水害の惨状。到る所泥の山。流失した家財などで復旧に多くの人手、資材と日数を要した。(上通り筋)



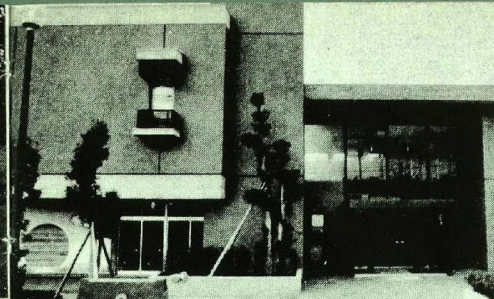
昭和43年1月6日市民会館が完成。一、八〇〇人収容の大ホールと各種の会議室を備えた近代建築。

熊本市のあゆみ

THE COURSE OF KUMAMOTO



昭和35年10月、第15回国民体育大会は、全国から1万3千人が集まり盛大に開催された。



昭和52年9月
東部市民センター開設。



昭和54年10月1日、市制90周年の記念すべき式典の席上で中国桂林市と友好都市締結。

- 昭和
- 1953 28年7月 池上村、高橋村、城山村を市に合併
 - 10月 市立図書館発足 ラジオ熊本開局
 - 1954 29年6月 市自治警察廃止（警察制度改正）
 - 10月 秋津村を市に合併 市電30年記念「交通観光博覧会」を開催
 - 1955 30年4月 松尾村を市に合併
 - 1956 31年4月 託麻村の一部を市に合併
 - 1957 32年1月 小島町、龍田村を市に合併
 - 7月 大水害で市の33%が浸水し、金峰山周辺の山津波で死者、行方不明多数を出す
 - 1958 33年2月 NHK熊本テレビ開局
 - 4月 中島村を市に合併 天皇后両陛下ご巡幸で立田山、水前寺などをご観覧 第30回選抜高校野球大会で済々饗が優勝
 - 9月 熊本市体育館が水前寺公園横に完成
 - 1959 34年4月 国民年金制度発足
 - 7月 国民健康保険制度発足
 - 1960 35年4月 熊本空港開設
 - 5月 愛市憲章を制定
 - 8月 熊本城天守閣再建完成

- 昭和
- 1960 35年9月 第15回国民体育大会を開催
 - 12月 西保健所を開設
 - 1962 37年3月 天守閣再建記念「躍進熊本大博覧会」開催
 - 1963 38年4月 北部清掃事業所開所
 - 1964 39年4月 市総合計画策定（マスタープラン）
 - 10月 「まちをキレイにする運動」がはじまる
 - 12月 東部汚水処理場完成
 - 1965 40年4月 市食肉センター開所 この年、市内全小学校にプール完成
 - 1966 41年9月 西部清掃事業所開所 市民相談室を設置
 - 10月 熊本保健所が九品寺1丁目に新装発足
 - 1967 42年3月 出水町に県庁新庁舎が完成
 - 1968 43年1月 市民会館開館
 - 4月 市社会教育会館が開館 市育英奨学制度創設
 - 1969 44年4月 熊本（水辺）動物園が完成し、「熊本動物大博覧会」を開催
 - 8月 熊本市章きまる
 - 1970 45年11月 託麻村を市に合併
 - 1971 46年4月 新熊本空港開設
 - 5月 市勤労青少年ホーム開館

- 昭和
- 6月 九州縦貫自動車道（熊本・植木間）開通
 - 7月 熊本市基本構想きまる
 - 11月 市立ユースホステル開館
 - 1972 47年10月 「森の都」を宣言し、森の都作戦を展開
 - 12月 秋津下水処理場が完成
 - 1973 48年1月 戸島町に市斎場開設
 - 5月 学校給食東共同調理場が完成
 - 1974 49年6月 勤労婦人センターを本山町に開設
 - 10月 西部、南部市民センターが完成 森の都のシンボルとして市の木「イチョウ」、市の花「肥後ツバキ」がきまる
 - 1975 50年5月 身体障害者福祉モデル都市に指定される
 - 9月 南千反畑町に中央老人福祉センターが完成
 - 10月 市立金峰山少年自然の家が開所
 - 1976 51年3月 「地下水保全都市」を宣言
 - 1977 52年4月 西南の役百周年記念式典を行う
 - 5月 熊本市人口が50万人を突破

昭和46年6月熊本・植木間の高速自動車道が開通した。

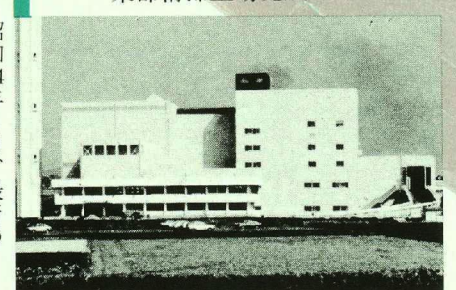


- 昭和
- 52年9月 錦ヶ丘に東部市民センター完成 地下水保全条例を制定する
 - 1978 53年4月 新しい熊本博物館が開館
 - 8月 市民総参加の「火の国まつり」が誕生

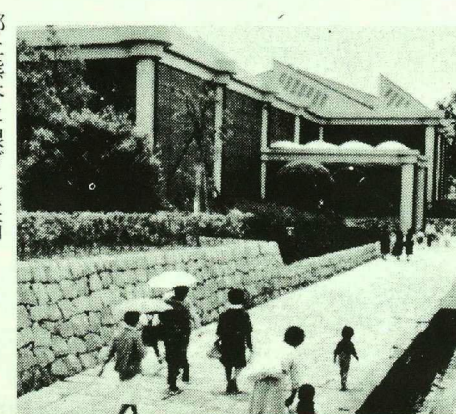


昭和53年8月、熊本の新しい夏まつり、市民総参加の「火の国まつり」が始まる。

- 昭和
- 1979 54年4月 東部清掃工場完成



昭和54年4月、最新の処理機能を誇る東部清掃工場完成



- 昭和
- 1979 54年4月 新熊本市市民病院開設
 - 7月 熊本市保健センター開設（現東部保健センター）が開所
 - 龍田市民センター完成
 - 10月 「健康都市」を宣言 中国・桂林市と友好都市締結 市制90周年記念式典を行う 養護老人ホーム明生園開園
 - 1980 55年6月 身障者福祉センター希望荘開設
 - 8月 水害で約16,900人の市民の罹災者を出す
 - 12月 熊本市総合計画基本構想きまる
 - 1981 56年1月 熊本市保健衛生研究所開設
 - 2月 熊本城西大手櫓門復元完成
 - 3月 産業文化会館が開館
 - 5月 託麻市民センター完成
 - 7月 熊本市総合計画基本計画きまる
 - 8月 西ドイツ・バイデルベルク市へ友好訪問団を派遣
 - 10月 熊本市民の翼、友好都市桂林市を訪問
 - 11月 新市庁舎建設完成
 - 1982 57年6月 幸田市民センター完成
 - 7月 北部保健センター開設 小楠記念館完成

産業文化会館

- 昭和
- 青少年野外活動センター完成
 - 8月 西ドイツ・バイデルベルク市管楽五重奏団来熊
 - 11月 図書館完成
 - 1983 58年4月 龍田体育館完成
 - 1984 59年5月 市の鳥としてシジュウカラ制定 扇田埋立処分場供用開始
 - 7月 清水市民センター完成
 - 8月 熊本市の人口が55万人を突破
 - 10月 消防新庁舎完成
 - 1985 60年6月 母子福祉センター完成
 - 8月 秋津市民センター完成
 - 1986 61年1月 熊本市自転車駐車場完成
 - 3月 電子計算システム始動
 - 4月 西部清掃工場完成・東部清掃事業所開所
 - 7月 総合体育館・青年会館開館
 - 8月 第4回全国都市緑化くまもとフェア開催（8月1日～10月12日）
 - 10月 10月1日を「市民健康の日」と制定

昭和56年11月 新市庁舎完成



昭和35年9月、83年ぶりに熊本城天守閣が再建された。



昭和62年9月、教育センターオープン。

熊本市のあゆみ

THE COURSE OF KUMAMOTO

平成元年4月
流通情報会館完成



昭和
61年12月
新西保健所開設
62年4月
川尻下水処理場運転開始
5月
「ふれあいの森林」
内に森林学習館がオープン
9月
西消防署が移転新築
教育センターオープン
10月
第1回熊本緑化祭開催
12月
米国・サンアントニオ市と
姉妹都市締結
1988
63年1月
くまもと女性フォーラム'88開催
2月
シルバー人材センター発足
4月
大阪事務所オープン
平成元年8月
金糸猴一般公開
女性消防士誕生
昭和62年12月、
米国サンアントニオ市
と姉妹都市締結。



シンボルマーク発表会
長堀通り開通
7月
大江市民センター完成
8月
江津湖まつり(マイソング発表会)

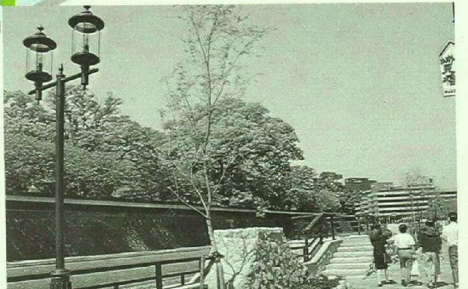
熊本市・サンアントニオ市 姉妹都市締結調印式



平成
10月
くまもと緑化祭・地場産業振興フ
ェア開催
1989
平成元年1月
坪井川リバーウォーク構想発表
3月
市議会で飽託郡四町からの合併請
願採択
4月
「熊本百彩」開幕
流通情報会館完成
「水源かん養林記念植樹祭」
5月
サンアントニオ市に「熊本園」完成
6月
託麻北小学校に屋上プール完成
8月
金糸猴一般公開



南部保健センター開設
9月
宇土櫓・数寄屋丸二階御広間完成
動物資料館完成
熊本城フェスティバル
10月
歴史都市サミット開催
11月
大阪で「くまもと農産物フェア」成
開く



平成
平成2年3月
政治倫理条例制定
4月
「総合婦人会館・カルチャーセンタ
ー」がオープン
武蔵塚公園が新たに開園
5月
川尻下水処理場汚泥焼却場完成
6月
中国・桂林市、アメリカ・サンア
ントニオ市、ドイツ・ハイデルベ
ルグ市を迎え「水資源国際会議」
を開催
7月
「歴史廻廊都市くまもと」作成
8月
花園市民センターがオープン
市民長寿社会憲章制定
9月
平成学園オープン
熊本駅前北地区再開発ビル着工
10月
「熊本桂林友誼館」が落成
第1回女性問題全国会議開催
「水の科学館」が開館
11月
第3回地場産業振興フェア開催



総合婦人会館
カルチャーセンタ
ー



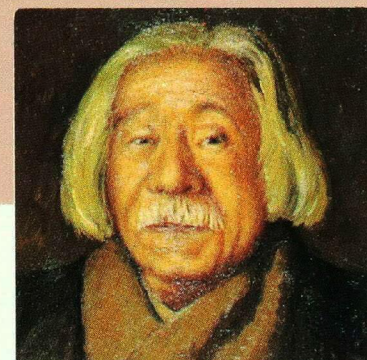
水資源国際会議



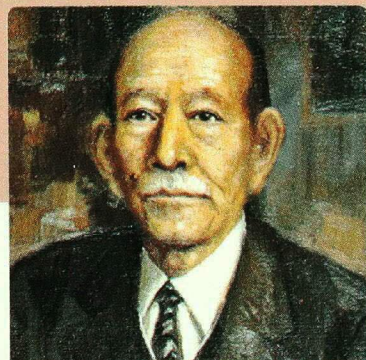
水の科学館

名 誉 市 民

Human City くまもと



徳富蘇峰(本名・猪一郎)氏
(昭和30年1月1日表彰)
近世日本の先覚者。また、世界に
稀な優れた思想家であった。
熊本在住中は、白川新聞、熊本新
聞等を発刊。大江義塾の創始者と
して子弟の教育に専念し、その啓
蒙的影響が大であった。
文久3年1月25日生れ、
昭和32年11月2日死去、95歳。



高橋守雄氏
(昭和30年1月1日表彰)
第7代熊本市長として、歩兵23連
隊の移転・市電・上水道の開設の
三大事業を完遂、市の近代化、発
展繁栄に尽した。また、教育者と
して熊本商大、短大学長を歴任、
郷土教育の振興育成に努力した。
明治16年1月1日生れ、
昭和32年5月6日死去、73歳。



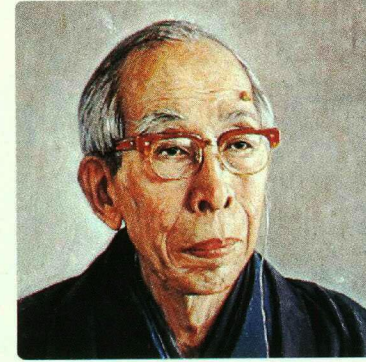
細川護立氏
(昭和35年4月1日表彰)
肥後旧藩主細川家16代。有斐学舎
舎長、肥後奨学会設立、多額の奨学
金を出資して本県出身学徒の育成
援護に尽した。国の文化財保護委
員会委員として、本市の重要文化
財、史跡、名勝等の保存活用に貢献。
明治16年10月21日生れ、
昭和45年11月18日死去、87歳。



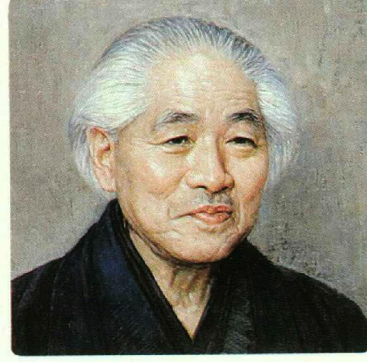
福田令寿氏
(昭和35年4月1日表彰)
医師開業のかたわら、医専五高等
で教鞭をとり子女の教育に専念の
外、社会文化、社会福祉の要職を
歴任、郷土の文化・福祉の向上発
展に尽した。清廉・潔白な人格者
であった。
明治5年12月7日生れ、
昭和48年8月7日死去、100歳。



宇野哲人氏
(昭和44年10月1日表彰)
東京帝国大学での漢学・中国哲学
の教授、東京大学名誉教授、実践
女子大学々長、名誉教授等優れた
業績は、郷土熊本の文運の興隆に、
また、我国の漢学関係の学者者に
多大の影響を与えた。
明治8年12月15日生れ、
昭和49年2月19日死去、98歳。



堅山南風(本名・熊次)氏
(昭和44年10月1日表彰)
横山大観画伯等に師事し、日本画
に精進。その多くの作品の上に、
肥後の郷土色のにじみ出た芸術の
香りがよく生かされている。日本
画壇の第一人者といわれ、また、
郷土文化の進展に大きく貢献した。
明治20年9月12日生れ、
昭和55年12月30日死去、93歳。



後藤是山(本名・祐太郎)氏
(昭和54年10月1日表彰)
元九州日日新聞社主筆。生来の文
人墨客の性格と豊かな文筆で、数
多くの郷土史を編さん監修、先人
についての研究著述があり熊本の
文化の啓蒙に尽した。「明星」同人、
句誌「かはがらし」(後の東火)を
主宰した。明治19年6月8日生れ、
昭和61年6月4日死去、99歳。



中村汀女(本名・破魔)氏
(昭和54年10月1日表彰)
高浜虚子の門下生で、現代女流俳
句の第一人者。常にふるさとを愛
する心を底流にした『汀女俳句』
は、氏の人柄と句にふれる人々に、
郷土愛を喚起させ、郷土の文化振
興に貢献。「ホトトギス」同人、「風
花」を主宰した。明治33年4月11日
生れ、昭和63年9月20日死去、88歳。